

# キャンパスライフを楽しもう



学生部長 高橋 正樹  
情報文化学科・教授

**もっと魅力ある居場所を**

ルバイトを週11時間以上している学生は  
34%になっています。

ここから浮かび上がるのは、授業が終  
わったらさっさと帰ってしまい、授業が  
なければ大学に来ない、サークル活動も  
せず、アルバイトに追われるという学生  
が全国的に少なからずいるということです。もちろん家庭の事情でアルバイト  
をしなければならない人もいるでしょう  
でしょうか。

それを、昨年本学も参加し実施した東大  
のアンケートの全国平均から見てみまし  
ょ。まず、学期中に大学に来ている日  
数では、週1日だけの学生の割合は43%  
で、週5日間が56.8%です。さらに、サー  
クルに入っていない学生は45.3%、ア

学業ではそのような学生が少しでも  
学業に専念できるように、各種の奨学金  
を用意して支援をしています。いずれに  
せよ、昨今の学生にとって、大学は必ず  
しも生活の中心になっていないのかもし  
れません。

その一つの原因として、  
大学内に居場所が案外少ない  
からかもしれません。大  
学は基本的には勉強するところですが、授業以外の時  
間に、「気軽に」自学自習  
やサークル活動やその他の  
課外活動を楽しみ、あるいは  
友達とおしゃべりするところもあります。そんな  
場所をキャンパス内のあち

こちにつくれば、もっともっといい環境づくりに  
心掛けたいと思います。  
そのため、キャンパスライフについ  
てアンケートを実施して、学生から日々  
ろ考えている要望などを聞きたいと考え  
ています。当然、できること、できない  
こと、すべきでないことがあると思いま  
すが、学生と一緒にになって大学内にもつ  
と素晴らしい居場所をつくりたいと思  
っています。



## CONTENTS

2・3面

課外活動で輝こう  
平成20年度公認団体と同好会  
インターンシップ・学外実習体験報告

### 協力企業一覧

4・5面

コミュニティー政策学会開く  
北京師範大学と国際シンポジウム  
お薦めBOOK  
新任教員紹介

6面

映画の中の市民社会開催案内  
私の研究テーマ  
湧源・編集後記に代えて

7面

紅翔祭(10/25・26)案内特集

宮尾登美子氏を招き文化講演会  
実行委員長あいさつ イベント紹介

8面

ノイズムの金森氏を迎え連携講座  
卒業生の便り  
ロシア語コンテストで大活躍

# 課外活動で輝こう!

平成20年度 公認団体と同好会

	部員数
陸上競技	11
軟式野球	9
サッカー	12
バドミントン	11
バスケットボール	17
男子バレー	16
女子バレー	8
硬式テニス	11
硬式野球	18
ソフトテニス	20
茶道	16
吹奏楽	24
軽音楽	50
ダンス	15
フィットネス研究	5
MMC	26
中国文化研究会	8
fifty-fifty	6
フットサル	5
ACTION	22
knock out's	13
smile	16
BP	9
テカサークル	6
Liberty	23
蹴猿	25
C	6
ロシア研究会	8
現代視覚文化研究会	35
映画鑑賞	5
コリア研究会	13
アウトドア	31
n-VIC	7
競技麻雀	5
Fantastista	9
麻雀	5
NUISE	5
計	254

4月1日現在



私たち選手7名、マネージャー2名と人  
数が少なく、日ごろの練習はバレーボールを  
教えてくれるコーチがないながらも、お互  
いに切磋琢磨しながら日々の部活動に取り組  
んでいます。ま

(情報文化学科3年 福原 嘉浩)

## バレーボール部



大会には年4回、春と秋に信  
越大会と北信越  
大会に出場して  
います。北信越大会は4県で1部リーグ、2  
部リーグ、3部リーグに分かれて試合を行  
います。春季北信越大会では、  
大きな大会です。去年の春季北信越大会では、  
日ごろの練習の成果が実り2部リーグで優勝  
することができました。しかし、その後の秋  
季北信越大会では惜しくも2位と優勝を逃し  
てしまい悔しい思いをし、今年の5月に行わ  
れた春季北信越大会でも2位と、またも優勝  
を逃してしまいました。

10月には秋季北信越大会が開かれます。特

に今大会は主力として頑張ってくださった3  
人の4年生にとって最後の大会であり、また  
チームにとっても来年は新入部員が入部しな  
い限り人數的に大会に出場できなくなつてし  
まうので、今回の大会が最後になる可能性も  
あります。

## 肉体の改善・改造を楽しむ

(情報文化学科4年 阿部 大輔)

肉体の改善・改造を目的とした研究部で、  
有酸素運動・無酸素運動を行い、活動の一環  
としてパワーリフティングとアームレスリング  
を行なっています。部の目的はただ単に筋  
力を鍛えるということではなく、部員一人ひ  
とりが個々に目標を持ち、それぞれが自分の  
メニューでトレーニングを行うことです。

部員には筋力強化のための増量や健康維持  
のための減量のほかに、球技や武道といった  
ものの競技能力向上のためにトレーニングを  
している者もいます。それぞれの競技にどの  
ような筋力が必要なのかを考えます。

2009年にパ

ワーリフティン  
グの大会に参  
加し、大会の補  
助役員も行なっ  
ています。また  
その大会に向け

羽賀 一樹

(情報システム学科3年 羽賀 一樹)

## 「和敬清寂」を頭に練習

(茶道部 情報システム学科3年 羽賀 一樹)

文化系の部活  
でかなり人數の  
多い部で、22人  
の部員たちが講  
義と講義の合間  
の時間や講義が  
終了した後など  
に活動していま  
す。基本的にこ  
れといった部活  
を開く時間は無  
く、やろうと思つたときにできるような環境  
になつています。

茶道部は「和敬清寂」を念頭に置き練習に  
励んでいます。この言葉は、千家の開祖であ  
る千利休が定めた「四規」のことで、「和」は  
人や自然に逆らわず調和するさま、「敬」は他  
を敬愛すること、「清」は常に身も心も清淨  
を心がけること、「寂」は心寂に悟ることを意  
味しています。こんなことを書いていると茶  
道部は硬く敷居の高い部活と思われるかもし  
れませんが、基本的にみんな仲良く和気あい  
あいと部活に励んでいます。

学園祭「紅葉祭」でも茶会を開きお前前を  
披露しています。多くの人が自分たちの点て  
たお茶を飲んでくれるのはとても達成感があ  
り、おいしいと言つてもらえることに大きな  
喜びを感じています。

筋力トレーニングや減量のための有酸素運動  
は、球技などの練習と違い単調になりがちで、人  
によつては辛いものがあるかもしれません。  
ですから決められたメニューを強制するので  
はなく、楽しみながらやるということを重  
視しています。もちろん効率のよいやり方で  
はありませんが、大切なのは自分の決めた目  
標に向けあきらめずにトレーニングを継続す  
ることです。部員どうして補助や助言をして  
互いを高め、強制ではなく部員それぞれの自  
主性を尊重するようにしています。

あります。だから今回の大会が、優勝を狙え  
る最後のチャンスでもあります。このチャン  
スを逃さないためにも、日ごろの練習にいつ  
そうの力を入れチーム一丸となり優勝を目指  
して頑張っていきます。どうぞ応援よろしく  
お願いいたします。

練習を重ねています。

筋力トレーニングや減量のための有酸素運動  
は、球技などの練習と違い単調になりがちで、人  
によつては辛いものがあるかもしれません。  
ですから決められたメニューを強制するので  
はなく、楽しみながらやるということを重  
視しています。もちろん効率のよいやり方で  
はありませんが、大切なのは自分の決めた目  
標に向けあきらめずにトレーニングを継続す  
ることです。部員どうして補助や助言をして  
互いを高め、強制ではなく部員それぞれの自  
主性を尊重するようにしています。

また、対外活動にも積極的に参加し、新潟  
大学や他の大学とも交流を持つて、流派は違  
えど共に茶道の精神を磨いています。その交  
流から学生が中心になって開く茶会「学生茶  
会」も行つており、学生同士が交流を深めさ  
らに多くのことに参加していきたいと思って  
います。

## 強烈絆でリーグ勝ち抜く

(情報文化学科3年 今井 克哉)

私たち春と秋にある東日本大会を目指し  
て日々練習しています。部員は皆仲が良くて、  
和氣あいあいと練習しています。

私たちは新潟県の大学軟式野球リーグに加  
盟しています。現在は10大学が加盟し、東日  
本大会は総当たりリーグ戦を行い勝たなけれ  
ばなりません。春は1校、秋は2校が出席す  
ることができます。練習は週に2回で、少な  
いと思われるかもしれません、気を引き締  
めてしっかり効果的にやります。私たちはこ  
れがベストだと思っています。基本的には  
キヤツチボール、トスバッティングから始ま  
り、フリー・バッティング、内外野別のノックな  
どの基本から、ランナーをイメージした実践的  
なゲームノックを行っています。また部員の  
方から声があればメニューを変えていきます。  
これは部員全員で部を動かしていこうという  
気持ちの表れです。

そうした練習の後に試合に臨むわけです  
が、試合では当然勝ちにいきます。その時点  
で組める一番いいオーダーを常に組んでいき  
ます。そうしてリーグ戦を戦っていくわけです。  
試合では常に声を掛け合つて、連携をし  
ていきます。うまくいかないときもあります  
が、そこはみんなでフォローしていきます。そ  
うしたチーム内の絆を大事にしています。

## 北信越優勝ラストチャンス

# 「どうじ」との現場から体験報告



丸新グループ

情報文化学科3年 浅井 太地

アークベルグループ

情報文化学科3年 小野澤 友里江



県厅土木部

情報システム学科3年 荒川 章子

## 就きたい職場での実体験

これから本格的に就職活動を始めていくに当たって、働くということについてより具体的に考え、私の中での就職に対する意識を高めていきたいと思つた。また、職場における良好な人間関係とは、ただ仲が良いといふものではなく、職場の人間関係はそれほど重要ではないと思つていていました。しかし仕事で、職場の人間関係はそれほど重要ではないと思つていていました。

感や協調性などをもつて取り組めるようでありたいと感じました。

また、今回の実習を通して、社会の現場の一角に実際に身を置いてみると、これから社会人になるにあたり自分に足りない部分は何かということが、自分をあらためて考へることができたとともに、それを正していこうと自分を見つめ直すことができました。

将来は自分の生まれ育つてきた新潟県で働いてみたいといふことを思つていました。新潟県の国土利用計画の改定作業を行うに当たつて、県民を対象にした、土地利用に関する意識調査についてのアンケート調査案を作成などをさせていただきました。

私は用地・土地利用課で実習させていただきました。新潟県の国土利用計画の改定作業を行つて、県民を対象にした、土地利用に関する意識調査についてのアンケート調査案を作成などをさせていただきました。

日々伝わってきました。仕事に対する熱意や根気、また、チームワークやその重要さを感じられました。私も将来的自分の仕事に対しして熱意、根気、責任をより良くしていきたいという思いがます。

私がインターンシップに参加しようと思った理由は、社会に出て仕事をするといふことが全く想像できず不安だったので、少しでも体験しておきたいと思つたからです。

仕事をする上で人間関係がいかに大切であるか、職場の雰囲気、誠実さや誠意ある行動の大切さなどをあらためて学んで知ることができました。

私は今まで、仕事は一人でやるもので、職場の人間関係はそれほど重要でなければならないと思つていました。しかし仕事で、職場の人間関係はそれほど重要でないと思つていました。しかしながら人間関係は円滑で、良好なものでなければならぬといふことを感じました。また、職場における良好な人間関係とは、ただ仲が良いといふものでは

認識できるところが、実際に、会員の評判、新たな仕事につながるところが、一つの基準となつたので、今後役立つことはあります。

## 人間関係の大切さを学ぶ

このインターンシップは、自分自身についてもよく知ることができたし、これから就職活動を行つていくうえでの一つの基準となつたので、今後役立つと思います。



## 学外実習

J A 新潟電算センター

情報システム学科3年 吹井 憲一

## インターンシップ

このインターンシップは、自分自身についてもよく知ることができたし、これから就職活動を行つていくうえでの一つの基準となつたので、今後役立つと思います。

実習では実際の婚礼での接客サービスなどの貴重な経験をさせていただきました。実際にお客さまと接することでも、「一般的に言われる『接客業』とは少しうまく接客業を持ちました。『目配り・心配り・気遣いの大切さ』や『マナー』等も学ぶことができ、この2週間で得るもののはたくさんありました。またいろいろな社員の方と行動と共に仕事をする中で、「すべてはお客さまのために」という姿勢がすごく伝わってきました。「最高の式を挙げてもらいたい」という思いが、ここまで強く伝わつて

きたのは初めての体験でした。フロント業務やビアンベール(衣裳)

これらに共通する一つが、式場の色とドレスの色の組み合わせを考えることです。

これはどの段階においても必要なことで、無くてはならないものだと、実習だとあらためて思いました。

## 「お客様のために」を実感

その後に生かしました。この経験を大切にし、今後もお客様のために、あらためて仕事を通して感じました。それと同時に、接客業で、お客様との間に信頼関係を！」



## 社会人と学生の違い認識

株式会社北都  
イワツキ株式会社  
富士ゼロックス新潟販売株式会社  
丸新グループ  
株式会社新潟総合テレビ  
株式会社エフエムラジオ新潟  
アークベルグループ  
株式会社ホテル新潟  
新潟国際コンベンションホテル株式会社

株式会社ホテルオークラ新潟  
社団法人新潟県経営者協会  
新潟県中小企業家同友会  
株式会社佐久間組  
株式会社博進堂  
株式会社新潟フジカラー  
東芝ホームテクノ株式会社  
株式会社新潟日報社  
株式会社新潟放送

株式会社B S N アイネット  
株式会社グローバルネットコア  
サイバーコム株式会社  
株式会社富士通新潟システムズ  
株式会社新潟県農協電算センター  
株式会社ピット・エイ  
味の素システムテクノ株式会社  
株式会社東映ホテルチェーン新潟東映ホテル  
セコム上信越株式会社

新潟商工会議所  
第四銀行株式会社  
北越銀行株式会社  
原信ナルスホールディング株式会社  
日産プリンス新潟販売株式会社  
株式会社サンソウシステムズ  
新潟県

## 平成20年度インターンシップ・学外実習協力企業一覧（受入企業・団体・官庁名）

（順不同）

# 北京師範大の教授らと国際シンポジウム

## プログラム

7月12日(土)

開会(9:00~9:55)

特別講演「知事時代に推進した北東アジア経済圏構想」

平山征夫(新潟国際情報大学長)

●第1部(10:00~12:30)19世紀半ば以前の東アジアの地域交流

(司会) 区建英(新潟国際情報大学教授)

(報告) ・漢唐以来の中国思想と東アジア・ヨーロッパとの文化関係

張清(北京師範大学教授)

・儒学と東アジアとの文化共有 張昭軍(北京師範大学教授)

・回族と中央アジア・西アジアとの文化関係

王東平(北京師範大学教授)

・近代以前のロシアとアジア諸国との交流

A.プラーソル(新潟国際情報大学教授)

(コメント) 楠井共楽(北京師範大学教授、歴史学院長)

高橋正樹(新潟国際情報大学教授)

●第2部(14:00~17:00)近代西洋植民主義の衝撃による東アジア諸国の関係変化

(司会) 池田嘉郎(新潟国際情報大学講師)

(報告) ・植民地化の思想と近代アジア

越智敏夫(新潟国際情報大学教授)

・西洋の衝撃と中国の外交体制の変化

王開璽(北京師範大学教授)

・日本の植民地支配—台湾、朝鮮、中国大陆

吉澤文寿(新潟国際情報大学准教授)

・「東学」と中日文化交流の方向変化

史革新(北京師範大学教授)

(コメント) 孫燕京(北京師範大学教授)

小山田紀子(新潟国際情報大学教授)

7月13日(日)

●第3部(9:00~11:20)冷戦とポスト冷戦の東アジアの地域交流

(司会) 佐々木寛(新潟国際情報大学教授)

(報告) ・戦後日本の歴史教育と教科書問題

小林元裕(新潟国際情報大学准教授)

・東アジア歴史教育国際交流—中日交流を中心に

鄭林(北京師範大学副教授)

・ポスト冷戦期の中日経済協力 李志英(北京師範大学教授)

・ポスト冷戦期の東アジア国際関係動向

小澤治子(新潟国際情報大学教授)

(コメント) 唐利国(北京師範大学講師)

安藤潤(新潟国際情報大学准教授)

●総合討論(11:30~12:45)

(司会) 高橋正樹(新潟国際情報大学教授)

(総合発言) 東アジア地域主義の現在とヨーロッパの経験

臼井陽一郎(新潟国際情報大学教授)

7月12日(土)  
●開会(9:00~9:55)  
特別講演「知事時代に推進した北東アジア経済圏構想」  
平山征夫(新潟国際情報大学長)  
●第1部(10:00~12:30)19世紀半ば以前の東アジアの地域交流  
(司会) 区建英(新潟国際情報大学教授)  
(報告) ・漢唐以来の中国思想と東アジア・ヨーロッパとの文化関係  
張清(北京師範大学教授)  
・儒学と東アジアとの文化共有 張昭軍(北京師範大学教授)  
・回族と中央アジア・西アジアとの文化関係  
王東平(北京師範大学教授)  
・近代以前のロシアとアジア諸国との交流  
A.プラーソル(新潟国際情報大学教授)  
(コメント) 楠井共楽(北京師範大学教授、歴史学院長)  
高橋正樹(新潟国際情報大学教授)  
●第2部(14:00~17:00)近代西洋植民主義の衝撃による東アジア諸国の関係変化  
(司会) 池田嘉郎(新潟国際情報大学講師)  
(報告) ・植民地化の思想と近代アジア  
越智敏夫(新潟国際情報大学教授)  
・西洋の衝撃と中国の外交体制の変化  
王開璽(北京師範大学教授)  
・日本の植民地支配—台湾、朝鮮、中国大陆  
吉澤文寿(新潟国際情報大学准教授)  
・「東学」と中日文化交流の方向変化  
史革新(北京師範大学教授)  
(コメント) 孫燕京(北京師範大学教授)  
小山田紀子(新潟国際情報大学教授)

## 信頼の築き方で世界を繋ぐ

北師大の張

7月12日(土)  
●開会(9:00~9:55)  
特別講演「知事時代に推進した北東アジア経済圏構想」  
平山征夫(新潟国際情報大学長)  
●第1部(10:00~12:30)19世紀半ば以前の東アジアの地域交流  
(司会) 区建英(新潟国際情報大学教授)  
(報告) ・漢唐以来の中国思想と東アジア・ヨーロッパとの文化関係  
張清(北京師範大学教授)  
・儒学と東アジアとの文化共有 張昭軍(北京師範大学教授)  
・回族と中央アジア・西アジアとの文化関係  
王東平(北京師範大学教授)  
・近代以前のロシアとアジア諸国との交流  
A.プラーソル(新潟国際情報大学教授)  
(コメント) 楠井共楽(北京師範大学教授、歴史学院長)  
高橋正樹(新潟国際情報大学教授)  
●第2部(14:00~17:00)近代西洋植民主義の衝撃による東アジア諸国の関係変化  
(司会) 池田嘉郎(新潟国際情報大学講師)  
(報告) ・植民地化の思想と近代アジア  
越智敏夫(新潟国際情報大学教授)  
・西洋の衝撃と中国の外交体制の変化  
王開璽(北京師範大学教授)  
・日本の植民地支配—台湾、朝鮮、中国大陆  
吉澤文寿(新潟国際情報大学准教授)  
・「東学」と中日文化交流の方向変化  
史革新(北京師範大学教授)  
(コメント) 孫燕京(北京師範大学教授)  
小山田紀子(新潟国際情報大学教授)

7月13日(日)  
●第3部(9:00~11:20)冷戦とポスト冷戦の東アジアの地域交流  
(司会) 佐々木寛(新潟国際情報大学教授)  
(報告) ・戦後日本の歴史教育と教科書問題  
小林元裕(新潟国際情報大学准教授)  
・東アジア歴史教育国際交流—中日交流を中心に  
鄭林(北京師範大学副教授)  
・ポスト冷戦期の中日経済協力 李志英(北京師範大学教授)  
・ポスト冷戦期の東アジア国際関係動向  
小澤治子(新潟国際情報大学教授)  
(コメント) 唐利国(北京師範大学講師)  
安藤潤(新潟国際情報大学准教授)  
●総合討論(11:30~12:45)  
(司会) 高橋正樹(新潟国際情報大学教授)  
(総合発言) 東アジア地域主義の現在とヨーロッパの経験  
臼井陽一郎(新潟国際情報大学教授)

7月13日(日)  
●第3部(9:00~11:20)冷戦とポスト冷戦の東アジアの地域交流  
(司会) 佐々木寛(新潟国際情報大学教授)  
(報告) ・戦後日本の歴史教育と教科書問題  
小林元裕(新潟国際情報大学准教授)  
・東アジア歴史教育国際交流—中日交流を中心に  
鄭林(北京師範大学副教授)  
・ポスト冷戦期の中日経済協力 李志英(北京師範大学教授)  
・ポスト冷戦期の東アジア国際関係動向  
小澤治子(新潟国際情報大学教授)  
(コメント) 唐利国(北京師範大学講師)  
安藤潤(新潟国際情報大学准教授)  
●総合討論(11:30~12:45)  
(司会) 高橋正樹(新潟国際情報大学教授)  
(総合発言) 東アジア地域主義の現在とヨーロッパの経験  
臼井陽一郎(新潟国際情報大学教授)

7月13日(日)  
●第3部(9:00~11:20)冷戦とポスト冷戦の東アジアの地域交流  
(司会) 佐々木寛(新潟国際情報大学教授)  
(報告) ・戦後日本の歴史教育と教科書問題  
小林元裕(新潟国際情報大学准教授)  
・東アジア歴史教育国際交流—中日交流を中心に  
鄭林(北京師範大学副教授)  
・ポスト冷戦期の中日経済協力 李志英(北京師範大学教授)  
・ポスト冷戦期の東アジア国際関係動向  
小澤治子(新潟国際情報大学教授)  
(コメント) 唐利国(北京師範大学講師)  
安藤潤(新潟国際情報大学准教授)  
●総合討論(11:30~12:45)  
(司会) 高橋正樹(新潟国際情報大学教授)  
(総合発言) 東アジア地域主義の現在とヨーロッパの経験  
臼井陽一郎(新潟国際情報大学教授)

7月13日(日)  
●第3部(9:00~11:20)冷戦とポスト冷戦の東アジアの地域交流  
(司会) 佐々木寛(新潟国際情報大学教授)  
(報告) ・戦後日本の歴史教育と教科書問題  
小林元裕(新潟国際情報大学准教授)  
・東アジア歴史教育国際交流—中日交流を中心に  
鄭林(北京師範大学副教授)  
・ポスト冷戦期の中日経済協力 李志英(北京師範大学教授)  
・ポスト冷戦期の東アジア国際関係動向  
小澤治子(新潟国際情報大学教授)  
(コメント) 唐利国(北京師範大学講師)  
安藤潤(新潟国際情報大学准教授)  
●総合討論(11:30~12:45)  
(司会) 高橋正樹(新潟国際情報大学教授)  
(総合発言) 東アジア地域主義の現在とヨーロッパの経験  
臼井陽一郎(新潟国際情報大学教授)

7月13日(日)  
●第3部(9:00~11:20)冷戦とポスト冷戦の東アジアの地域交流  
(司会) 佐々木寛(新潟国際情報大学教授)  
(報告) ・戦後日本の歴史教育と教科書問題  
小林元裕(新潟国際情報大学准教授)  
・東アジア歴史教育国際交流—中日交流を中心に  
鄭林(北京師範大学副教授)  
・ポスト冷戦期の中日経済協力 李志英(北京師範大学教授)  
・ポスト冷戦期の東アジア国際関係動向  
小澤治子(新潟国際情報大学教授)  
(コメント) 唐利国(北京師範大学講師)  
安藤潤(新潟国際情報大学准教授)  
●総合討論(11:30~12:45)  
(司会) 高橋正樹(新潟国際情報大学教授)  
(総合発言) 東アジア地域主義の現在とヨーロッパの経験  
臼井陽一郎(新潟国際情報大学教授)

最初に、本学の平山征夫学長が特別講演を行い、目覚しく発展している東アジアにおいて、新潟の地域貢献への期待を述べました。シンポジウムは3部構成で、それぞれ本学教員、區建英教授・池田嘉郎講師・佐々木寛教授の司会によつて進められました。

最初に、本学の平山征夫学長が特別講演を行い、目覚しく発展している東アジアにおいて、新潟の地域貢献への期待を述べました。シンポジウムは3部構成で、それ各自本学教員、區建英教授・池田嘉郎講師・佐々木寛教授の司会によつて進められました。

最初に、本学の平山征夫学長が特別講演を行い、目覚しく発展している東アジアにおいて、新潟の地域貢献への期待を述べました。シンポジウムは3部構成で、それ各自本学教員、區建英教授・池田嘉郎講師・佐々木寛教授の司会によつて進められました。

最初に、本学の平山征夫学長が特別講演を行い、目覚しく発展している東アジアにおいて、新潟の地域貢献への期待を述べました。シンポジウムは3部構成で、それ各自本学教員、區建英教授・池田嘉郎講師・佐々木寛教授の司会によつて進められました。

本学が主催、新潟県・新潟市の後援による国際シンポジウム「東アジア地域交流の歴史的変遷と発展状況」が7月12・13日、本学の新潟中央キャンパスで開催されました。提携校である北京師範大学から10人の教員がパネリストとして参加し、また県内外から約130名の方々にご出席していただきました。

アシアの視点から過去の冊封体制を顧み、中華世界の分権的な国内及び国際秩序形成のモデルを示唆しました。

第2部では、近代西洋植民地主義の衝撃による東アジア諸国関係の変遷について議論を行いました。

の小山田紀子教授は、日本が手本とした西欧の国民国家の植民地獲得競争や、脱植民地化後の移民問題に見られる人種差別の継続などの問題を指摘しました。

第3部では、まず今日の東アジア諸国対立の要因の一つである歴史認識問題について、本学の小林元裕准教授は、1980年代以来の右傾化に見える歴史教科書批判や「つくる会」などの歴史教科書問題を、家永教科書裁判への反発として起きた現象として捉え、家永教科書裁判の役割への評価を主張しました。北師大の鄭林副教授は中国の改革開放以来、東アジア諸国との

## [新潟中央キャンパスで]

地域交流の歴史的変遷と展望状況  
地域交流の歴史的変遷と展望状況  
地域交流の歴史的変遷と展望状況  
地域交流の歴史的変遷と展望状況

歴史教育国際交流の中で日本との交流が最も多かつたことを述べ、その成果と不足点を分析しました。またポスト冷戦期の経済協力と国際関係に



について、北師大の李志英教授は、冷戦終後の日中経済交流発展に伴い中国崩壊論や中國脅威論も高くなつたが、両国の経済協力において競争よ



藤潤准教授は日中経済協力における成敗論の問題性を指摘し、多様な発展モデルを認めて新しい協力関係を確立するよう提言しました。本学の安

り互恵の部分が多いとし、日本の中市場参入の利点を語りました。本学の小澤治子教授は、冷戦終後の東アジアの国際関係動向を分析し、冷戦復活の可能性を否定しながら、冷戦の残滓克服の方向性を説きました。報告へのコメントとして、北師大の唐利国講師は、中日の近代化比較における成敗論の問題性を指摘し、多様な発展モデルを認め、多様な発展モデルを認めて新しい協力関係を確立するよう提言しました。本学の安

の司会によつて進められました。本学の白井陽一郎教授がヨーロッパの経験という視点から総合発言を行つた後、フロアとの質疑応答で経済格差問題、環境問題などをめぐつて討論し、文化や制度や近代化モデルの多様性を認め合

いて、中国市場で活動する日本企業の増加によって中国やアジアで経済格差拡大を作り出される可能性について危惧を示しました。

9月卒業式  
4人に  
学位記授与

# 地域協力の歴史と展望

## 「コミュニティ政策学会」研究大会開く

コミュニケーション政策学会の第7回研究大会が7月5・6日、本学の新潟中央キャンパスで開催されました。同学会は、コミュニケーション（政策）にかかる研究者、コミュニケーター（政策）によってつくるら

れた学会です。今回は新潟市と本学の共催で、研究大会の運営を担当する

今年の研究大会では、「いま、コミュニケーションポジウムと15の分科会に」なにが問われているのか

多くの事例が発表された



## 15分科会で発表、情報交換も

大会2日目には、国内外の地域住民組織に関する研究成果の発表がおこなわれました。また、都市部の地域自治組織につ

いて、上越市、安芸高田市、豊田市の取り組みが報告されました。特別分

家による空き家をいか

した生涯現役の場づくりの事例が次々と報告され

ました。

いま、「コミュニティに何が問われているのか

（情報文化学科  
准教授  
長坂  
哲）

大野 富彦 情報システム学科 准教授

＜担当科目＞

総論と組織、企業と経済

総論と情報

情報処理演習U1

情報システム演習1・2

専門演習C、卒業研究

＜略歴＞

1993年 明治大学法学院法律学部卒業

同年 株式会社富士総合研究所

2001年 株式会社ビーリング代表取締役

08年 中央大学大学院総合政策研究科博士後期課程修了

同年9月 新潟国際情報大学情報文化学科准教授



本年度9月卒業式が9月17日、本校大會議室で行われ4人（1人欠席）に平山学長から学位記が授与されました。

式には学長のほか榎木学部長や越智、近藤両学長ら関係職員が出席し、晴れて卒業の目標をクリアできた学生たちに、温かい拍手をおくつて前途を激励しました。

5

## 公開講座 映画のなかの市民社会 受講無料

### 今年度テーマは「ロシアン・デモクラシー」

公開講座「映画のなかの市民社会」は1999年以来、新潟市の映画館「シネ・ウインド」と共催で開催しています。映画を題材として市民社会のあり方について考えています。今回は新潟ロシア連邦総領事館の後援をいただきました。

今年度テーマは「ロシアン・デモクラシー」です。ソビエト崩壊後、デモクラシーの国として再生されたロシア連邦。そこでは市民によって社会が再編されています。その国の過去と現在から、私たちは市民社会の何を学べるだろうか。話題の3作品をもとに、気鋭の研究者と在新潟総領事による連続講演で考えていきます。

公開講座 会場：新潟国際情報大学 中央キャンパス（19:00～20:30）

10月 15日『牡牛座』講師：池田嘉郎（新潟国際情報大学講師）

22日『12人の怒れる男』講師：田中まさき（新潟国際情報大学エクステンションセンター講師）

29日『罪と罰』講師：クラコフ・ワシーリー（在新潟ロシア総領事）

申し込み 電話、ファクシミリ、Eメール、ハガキに氏名、住所、電話番号、「映画のなかの市民社会」と記入して申込みください。また、シネ・ウインドの窓口でも受け付けます。

宛先：新潟国際情報大学 中央キャンパス 〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7番町1169

TEL 025-227-7111 FAX 025-227-7117 Email chuo@nuiis.ac.jp

上映作品 会場：新潟市民映画館シネ・ウインド

『牡牛座』（アレクサンドル・ソコロフ監督）

『12人の怒れる男』（ニキータ・ミハルコフ監督）

『罪と罰』（アキ・カウリスマキ監督）

10／4(土)～17(金)

13(月)～23(木)

18(土)～31(金)

現代社会ではあらゆる場面で情報システムが使用されています。これらがなんらかのトラブルで利用できなくなると、私たちの生活に支障をきたします。そのような事態を発生させないようにはどうしたらよいでしょうか。

大きな流れは次の通りです。まず「〇〇予約システム」「△△検索システム」のように、どのような分野で、どのような機能を持つ情報システムを開発するのかを決定します。これが決まりないことには何を開発してよいのかなりません。

井君とG.I.ジョーでよく遊んだ。アメリカ兵の人形を使つた戦争ごっこである。

ジエンダー全開だが楽しかった。彼のは陸軍で、こつちは海兵隊だった。ある日、彼の家で遊んだあと自宅に帰つたら自分の人形のガンベルトが違う。かつていい

海兵隊仕様ではなく、ださ

い陸軍のものである。玉井

君が交換したらしい。すぐ

に文句を言いに行つたら、

彼は「交換してもいいとい

う顔を越智君がしてたか

」と言う。

そのときどんな反論をし

たか覚えてない。しかし、

人の心を読むことはできな

いという当然のことを強く

感じた記憶はある。なぜ僕が思つてもないことを言つたことにするのか。彼の方こそ「ベルト貸して」とさえ言つてくれれば、一晩くらいなら貸してあげるのに。このときの玉井君に対

も」などと言ふ。しかし僕たちは本当に相手の気持ちを分かるのか。自分がしてほしいことを他人も本当に喜ぶのか。それは自分の価値観の強要ではないのか。

人間は各自の価値観を異にしながら、他者と一緒に社会を構築せざるを得ない。それは相手を自分とは違う存在だと認識したうえで、共同性を獲得することもある。そしてそのための道具は想像や思い込みではなく、言語での意思確認のはずだ。しかし、個人と社会の間には民族や国家などを獲得しようとする「鬱陶しい」ものも存在する。私の研究テーマはこの「鬱陶しさ」を少しでも軽減する方法の模索である。それを「アメリカ」と「市民」という二つの鍵

ところまで、本学の県内高校出身者比率は98%と極めて高い。この数字は、見方を変えれば、本学の知名度が新潟を一歩出ればまだ低いことを示すものであろう。

本学は文科省の「現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム」採択、システム学科の教育プログラムが日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けたほか、派遣留学・夏季セミナーの実施など、同規模の大学としては全国的にみても水準の高い教育内容を備えていることは疑いがない。

他の人の気持ちを勝手に読むほど恐ろしいことはなかなかない。どんかつ好きい世間では「相手の気持ちを考えろ」とか「自分ができたとしても理解はできない」とか「自分のことは彼らの気持ちを推測できない」とか「玉井君に感謝していない」とか「玉井君に感謝していない」とか

いることは、必ずしも伝わりはしない。そのため、大学の広報活動を展開することが必要となる。高品質なシステム開発の一翼を担う形式仕様記述の発展に一緒にかかる興味を持ち、研究対象としてみたい。

## 私の研究テーマ

### 高品質なシステム開発

情報システム学科・准教授 石川 洋

次に、各機能について入力情報、処理内容、出力情報などを決定し、情報システムの設計図（仕様書といいます）を作成します。仕様書の書き方はさまざまですが、高い信頼性を持つ情報システム

社会に送り出します。その後も定期的にメンテナンスや改良が必要となります。

形式仕様記述とは、開発対象を論理学と集合論を利用して数学的に表現し、その機能や性質を記述したもので、これを活用すれば、開発しようとしている

機能が正しいかどうかを数學的に証明できます。これにより、正しいことが証明された設計図に基づいたプログラム作成が可能となります。

高品質なシステム開発のための一翼を担う形式仕様記述の発展に一緒にかかる興味を持ち、研究対象としてみたい。

大学の広報活動は、その内容から学内広報、入試広報、対外（学外）広報に分けられる。いずれも重要であるが、このうち今回は対外広報について私見を述べたい。

対外広報は、受験生はもとより社会一般への情報発信や大学名の恒常的定着化等を目的としている点で、入試広報や学内広報とは性質が異なる。さまざまな媒体を使って大学独自の広報活動を展開することが必要となることがあります。最近では、野球やサッカースタジアムに広告看板を出す大学も増えてきた。中継が入ればテレビ画面を通じて大学名が全国に流れるのだから効果は大きい。

一方で、こうした企業まがいの広報活動を教育機関が行うことを見るのは、確かにそうした面はある。確かにそうした面はある。しかし、いくら教育の質が良くても知名度が低いままでは、結局はその良さも伝わりはしない。その点で教育の質の向上と知名度向上は車の両輪のようなものであり、適量の広告は必要不可欠である。

ところで、本学の県内高校出身者比率は98%と極めて高い。この数字は、見方を変えれば、本学の知名度が新潟を一歩出ればまだ低いことを示すものであろう。

湧源

編集後記に代えて

広報委員長 澤口 晋一

ているのは、形式仕様記述によつて高品質なシステムを完成した情報システムを実現する必要があります。

形式仕様記述とは、開発対象を論理学と集合論を利用して数学的に表現し、その機能や性質を記述したもので、これを活用すれば、開発しようとしている機能が正しいかどうかを数学的に証明できます。これにより、正しいことが証明された設計図に基づいたプログラム作成が可能となります。

高品質なシステム開発

大学の広報活動は、その内容から学内広報、入試広報、対外（学外）広報に分けられる。いずれも重要であるが、このうち今回は対外広報について私見を述べたい。

対外広報は、受験生はもとより社会一般への情報発信や大学名の恒常的定着化等を目的としている点で、入試広報や学内広報とは性質が異なる。さまざまな媒体を使って大学独自の広報活動を展開することが必要となることがあります。最近では、野球やサッカースタジアムに広告看板を出す大学も増えてきた。中継が入ればテレビ画面を通じて大学名が全国に流れるのだから効果は大きい。

一方で、こうした企業まがいの広報活動を教育機関が行うことを見るのは、確かにそうした面はある。確かにそうした面はある。しかし、いくら教育の質が良くても知名度が低いままでは、結局はその良さも伝わりはしない。その点で教育の質の向上と知名度向上は車の両輪のようなものであり、適量の広告は必要不可欠である。

ところで、本学の県内高校出身者比率は98%と極めて高い。この数字は、見方を変えれば、本学の知名度が新潟を一歩出ればまだ低いことを示すものであろう。

本学は文科省の「現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム」採択、システム学科の教育プログラムが日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けたほか、派遣留学・夏季セミナーの実施など、同規模の大学としては全国的にみても水準の高い教育内容を備えていることは疑いがない。

本学は今こそ、こうした特色を県内外に積極的に発信する時に来ているのではない

# テーマは「喜度逢楽～楽しいことにまた逢える」

# 紅翔祭

10/25(土)・26(日)

今年度の紅翔祭実行委員長を務めさせていた  
だくことになりました。紅翔祭は今年で15回目  
となります。テーマは「喜度逢楽～楽しいこと  
にまた逢える」に決定しました。一緒に祭り  
を盛り上げる学生、地域の皆さまをはじめ、本  
学を訪れるすべての方に楽しんでいただきたい  
と思い、このテーマにさせていただきました。

実行委員会では来たる10月25・26日に向けて  
着々と準備を進めています。紅翔祭を経験した  
ことのある2・3・4年生の実行委員は昨年度  
までの経験を生かし、よりいっそう祭りを盛り  
上げようと奮闘しています。これまで先輩が築  
き上げてきた基盤を大切にしつつ、新しい風を  
吹かせようとさまざまな企画を立てています。  
また、1年生は何もかもが初めてでありながら  
新しいアイデアを出してくれて、お互いの刺激を  
受けながら活動しています。

## 楽しさを共有できますように

紅翔祭実行委員長  
情報システム学科・4年 石井 彩子

### 主な開催イベント

#### [25日のみ]

- アームレスリング大会
- DANCERS PARTY
- スマブラ大会
- お姫さま抱っこ選手権

#### [25・26日]

- MMCの名刺屋さん
- 会長のすべらない話
- Русское кафе
- 人前でボケます
- 民族衣装の展示、試着
- アクシデントコア
- 映画上映会
- 石川研究ゼミ展示・発表
- 吹奏楽部コンサート
- カナダ夏期セミナー報告
- ウイニングイレブン大会
- 河原ゼミ研究発表・展示
- 茶会
- 軽音ライブ'08
- お宝探し

#### [26日のみ]

- 演劇“阿凡提比智慧”
- NUISE☆エコフェスタ
- 利き茶
- クイズ!あなたはインテリ?
- What's this?
- bingo大会
- 農産物販売

## 文化講演会

■演題／「小説の中の女たち  
～篤姫の生涯を通して～」

■講師／宮尾 登美子氏

■開催日時／10月26日(日)

13:30～15:00(開場13:00)

■会場／新潟国際情報大学 本校体育館

■定員／600名(先着順、無料。入場整理券を送付いたします)

■申込方法／はがきに郵便番号、住所、氏名、年齢、聴講人数(上限5名)、電話番号をご記入

■宛先／〒950-2292

新潟市西区みずき野3-1-1

「新潟国際情報大学 文化講演会係」

★この講演会は、父母会およびみずき会(同窓会)の後援事業です。

★個人情報については、適切に管理し、講座および案内以外の目的では使用しません。



宮尾 登美子氏  
(小説家)

写真提供/  
カメラマン 久間 昌史「婦人画報」より

### 講師プロフィール

大正15年高知県生まれ。女学校卒業後、国民学校に代用教員として就職。昭和19年に結婚して満州にわたり、21年引き揚げる。高知県の社会福祉協議会に勤めながら文学を志し、昭和37年「連」で婦人公論女流新人賞を受賞。その後長いスランプに陥るが、9年余を費やし自らの生い立ちを描いた「櫂」で、昭和48年第9回太宰治賞を受賞し、作家としての地位を築いた。以後「陽暉樓」「鬼龍院花子の生涯」「寒椿」(第16回文部省文学賞)「一絃の琴」(第80回直木賞)「序の舞」(第17回吉川英治文学賞)「蔵」(エランドール賞特別賞)「クレオパトラ」など次々にヒット作を出し、ベストセラー作家の仲間入り。また作品の多くが芝居、映画、テレビ化されている。平成元年紫綬褒章。10年勲四等宝冠賞。12年第51回NHK放送文化賞。

NHK大河ドラマ「義経(平成17年)」「篤姫(平成20年)」の原作者

## 参加者募集! 卒業生集まれ! みずき野クリーンアップ大作戦

### ●開催日時

10月26日(日)

午前10:00 大学集合(受付)  
午前10:30 作業開始  
午前11:30 終了予定

### ●開催場所

新潟国際情報大学周辺  
(赤塚駅～みずき野ニュータウン)

### ●参加申し込み

当日参加も可能ですが準備の都合上、  
事前に下記アドレスまでご連絡ください。

dousou@nuiis.ac.jp

### ●その他

- (I) 雨天中止としますが、要集合とします。
- (II) ゴミ袋及び軍手は主催者側で用意します。
- (III) 参加者全員に記念品・昼食券を用意しております。

みずき会会長 高橋 毅

（同窓会）では、今年も紅翔祭に合わせた「みずき野クリーンアップ大作戦」を実施いたします。お世話になつた地域への、わずかながらの恩返しとして、みずき野町内の清掃を実施します。秋空の下、奮つてご参加いただけで気持ち良い爽やかな汗を流しましょう！

新潟国際情報大学みずき会

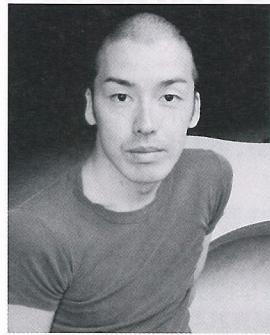
11/1  
(土)

本学と新潟日報社の連携講座 受講無料

りゅーとぴあ（新潟市民芸術文化会館）の専属舞踊カンパニーNoism芸術監督・金森穰氏を講師に迎えて、本学と新潟日報社の連携公開講座が11月1日（土）、本学の新潟中央キャンパスを会場に開催されます。演題は「21世紀の舞踊芸術」です。

演出振付家、ダンサーの金森氏は1974年東京生まれ。オランダのネザーランド・ダンス・シアター、フランス国立リヨン・オペラ座バレエ団、スウェーデン国立ヨーテボリ・バレエ団などで活躍の後に帰国。2004年から新潟に居を構えてNoismを率い、革新的なカンパニー活動とハイクオリティな企画作品が国内外で高く評価され、芸術選奨文部科学大臣賞（平成19年度）などを受賞しています。

## 「21世紀の舞踊芸術」



Noism 8

- 日時 11月1日(土)  
午後1時30分～3時30分  
(開場午後1時)
- 会場 新潟国際情報大学  
新潟中央キャンパス  
(駐車場はありません)
- 定員 200人  
(応募多数の場合は抽選)
- 申し込み締切 10月20日(月)必着

●申し込み方法・問い合わせ 往復はがきに郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、「21世紀の舞踊芸術」と明記の上

〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7-1169 新潟国際情報大学  
新潟中央キャンパス まで

TEL 025-227-7111 FAX 025-227-7117

E-mail chuo@nuiis.ac.jp

(個人情報については適切に管理し、講座および案内以外の目的では使用しません)

## Noismの金森穰氏を迎えて

情報文化学科 2007年度卒業 中山 絵理子

卒業生の便り

4月に大光銀行へ入行してから早6カ月がたちました。3週間におよぶ研修期間と支店での2カ月間の見習い期間を経て、7月から正行員として預金業務のうちの為替担当をさせていただいております。仕事は主に他行への振り込みや手形の処理ですが、忙しい日など場合によっては臨機応変にお客さまの通帳を作りしたり、住所変更等の諸届けを処理したりと幅広く業務を行っています。

この仕事はお客様の大切な財産をお預かりするため、正確かつ迅速に処理を行わなくてはなりません。しかしながら、常に緊張感を持ち業務を行う中でも、私が作った通帳を手にお客さまが「ありがとう」と笑顔でお帰りになる姿を見ると、とても充実した気持ちになります。

早6カ月がたちました。3週間におよぶ研修期間と支店での2カ月間の見習い期間を経て、7月から正行員として預金業務のうちの為替担当をさせていただいております。

まだ先輩にサポートしていただかなくてはならないことだらけの新人ではあります、が、「お客様のために何ができるか」を考えるようになりました。今はお客様が少しでも商品理解をしやすくなるように、店内広告を新しく

## 大切な財産を預かり緊張

仕事の合間に勉強  
新しい資格を取得



私は大学時代に熊谷ゼミで法律学を学び、英語を専攻していましたが、経済はあまり勉強していないなかため金融業界へ飛び込むことに不安がありました。その不安が的中し、金融知識が足りないために失敗してしまうことがあります。しかし、日々の講義や留学で学んだ「頑張る」を続けて、「新しい」を恐れない」ことは今でも守っている私の行動規範です。おかげか、仕事で疲れた中でも時間を見つけて勉強をし、最近では証券外務員一種の資格を取ることができました。

資格に限らず、日々の業務でも勉強しない日はありません。支店の方々から新しいことを学ぶたびにメモを取り、帰宅後にノートにまとめています。これからも自分自身が成長し続けるため、支店の先輩の助けになるため、またお客様に安心したサービスを提供するために、いつそう勉強していきたいと思っています。

続けて、「新しい」を恐れない」ことをもつてあります。しかし、日々の講義や留学で学んだ「頑張る」を

制作しているところです。

私は大学時代に熊谷ゼミで法律学を学び、英語を専攻していましたが、経済はあまり勉強していないなかため金融業界へ飛び込むことに不安がありました。その不安が的中し、金融知識が足りないために失敗してしまうことがあります。しかし、日々の講義や留学で学んだ「頑張る」を

第8回ロシア語スピーチコンテスト

## 本学学生が全員上位入賞



上段左から2人目が鴨井さん

ます。

第8回ロシア語スピーチコンテストが6月21日、新潟市のクロスマル新潟で行われ、本学から参加した情報文化学科の学生5人全員が上位入賞を果たしました。このコンテストは同市国際交流協会、ロシア領事館、市内の大学・短大、市民友好団体による実行委員会によつて企画・運営されています。

まず入門の部（課題文暗唱）で2年生の小田光さんが見事優勝。一般の部（3分間の自由スピーチ）では、3年生の熊倉静さんが「新潟でロシア語を学ぶということ」で優勝、同青木早苗さんが「ネズミの思い出」で2位に、2年生の乙川匡さんが「言語を学習する意味」で3位となり上位独占。またチャレンジの部（5分間の自由スピーチ）

でも、3年生の鴨井勇太さんが「ある美しい青年の人格」で優勝して、ハバロフスク旅行という豪華賞品をプレゼントされました。スピーチ終了後の審査中にはアトラクションもあり、本学の国際交流インストラクターが「ロシアクイズ」をして会場の雰囲気を盛り上げました。

## 気持ちを精いっぱい伝えた

情報文化学科3年 鴨井勇太

私がこのコンテストに出場しようと考えたのは、自分のロシア語で自分の気持ちが伝わるのかを知りたかったからです。大学2年時にロシア極東国立総合大学で4ヶ月半の留学を経験し、そこで得たロシア語力が、果たしてここまで通用するのか、あらためて留学の成果を確認したいという思いがありました。最も意識したことは、「いかに自分の気持ちを伝えることができるか」ということでしめた。自分が言いたいことと訳した後のロシア語との間にズレが生じては、本当に自分が言いたいことは伝わりません。スピーチ文を細心の注意を払つて訳しました。

コンテスト当日は、私のスピーチを聞いてくれているすべての人に、語りかけるように、自分の気持ちを訴えかけるように話すことを強く意識しました。当然原稿など見ず、聞き手の人々の目を見ながら、自分の気持ちを精いっぱい伝えようと努力しました。

スピーチを聞いてくれている人々の目はどうなぞきながら聞いてくれている姿を見て、少しは自分の気持ちを伝えることができたのかな、と感じました。自分の気持ちを伝えることのヒントが見つかったような気がします。